

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL.104
2008/10



「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

1 page [特集] 吉野川アラカルト

ふる〜ぶの夏日記

きらきらとした太陽が照りつけた暑い夏が終わり、
吉野川にも、秋がやってきました。
暑かった今年の夏を振りかえります。

3 page 過去から未来へ
美郷ほたる館 館長 佐藤正勝さん
美郷宝さがし探検隊 隊長 棟本誠二さん

4 page ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す!
久勝小学校の巻
北岸用水探検隊一水の恵みを知る〜

5 page ふる〜ぶめいと通信
〜吉野川 川の便り〜 川と仏と

6 page 源流域からの便り
第4便

ふる〜ぶ INFORMATION
求む!「野鳥観察モニター」

7 page よりよい吉野川づくり<第41回>
早明浦ダム管理開始以降最大の渇水
平成20年 吉野川夏渇水

ふる〜ぶひ・ろ・ば
編集後記・おたより・プレゼント



トビハゼ【スズキ目ハゼ科】

トビハゼは、吉野川河口近くの汽水域で見られます。
泥の中を這い回ったり、ジャンプしながら移動する
愛嬌たっぷりの魚です。

ふる～ぶの夏日記

きらきらとした太陽が照りつけた暑い夏が終わり、吉野川にも、秋がやってきました。

暑かった今年の夏を振りかえります。



8月1日(金)～8月3日(日) (3日間とも晴天)

ストーンアートで楽しみながら吉野川の石について学ぼう

今年も毎年の恒例行事「吉野川フェスティバル」へ参加しました。吉野川フェスティバルは、吉野川下流に位置する吉野川橋南岸河川敷広場で開催されている徳島を代表する夏の一大イベントです。今年も、ふる～ぶ編集部では、吉野川の石におもしろい絵を描いていただくストーンアート教室で参加、多くの方に楽しんでいただきました。

今年は、絵を描いている吉野川の石について学んでもらうため、以前ふる～ぶの取材でお世話になった

地質学が専門のおおどいよしみ先生に「石の教室」を開催していただきました。大戸井先生は、吉野川の石はどこからくるのか、どのようなものがあるのか、また、地層はどうなっているのかなどを、自ら作ったパネルで、猛暑の中、全身汗ビッシリになりながらも丁寧に分かりやすく説明してくださいました。

また、石灰岩の特徴を示すための実験では、微量の塩酸を石灰岩にスプイトでかけると、白いけむりをあげたり溶けて泡が出たりする様子に、子どもたちだけではなく、大人の方も興味深く見入っていました。

吉野川の石、この石はどこから、どうやって流れてくるのかな？そんな風に考えて勉強を始めると、楽しいですよ。

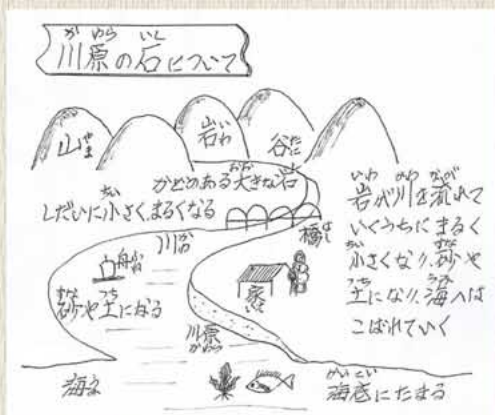


みんな楽しそうに描いています



熱弁をふるう大戸井先生。多くの方が石に関心を持ち、吉野川に近づいた

また、石と関係の深い砂防事業や、川での水難事故を防ぐためにはどのようにしたら良いかなどのパネルも展示され、来場者のみなさんに理解を深めていただきました。



みんな知ってる？川原の石は、こうやってできるんだよ～(大戸井先生が作って下さったプリントより)

■吉野川の川原の代表的な石



りよくていへんかん
緑泥片岩

「阿波の青石」で好まれている美しい緑色



こうれんへんかん
紅廉片岩

「阿波から外に出さないお止め石」。美しい赤色



チャート

非常に硬い石で黒っぽいのが多い。火打ち石になる



せっかいがん
石灰岩

石灰を作る石。白っぽいのが多い。塩酸に溶ける



せきえいがん
石英岩

石英の集まりで白っぽく大変硬い石

レキ岩、砂岩、泥岩も多く、大切な石です。

8月31日(日) (くもりのす晴れ)



鮎つかみどり大会

この日は、東みよし町の水辺の楽校ぶぶるパークみかもで開催された『鮎つかみどり大会』へ。

地元の子どもたち約100人が保護者と共に参加しました。集まった子どものなかには、水着を着て準備万端の子も。最初は、おそろおそろだった子どもたちも、最後は全身水につかって、楽しそうに鮎を捕っていました。

このイベントを主催しているのは、「サアーやらんで大楠21」のみなさんです。活動が始まったのは、平成2年三三大橋の開通の際、対岸の旧三好町「吉野川流域交流塾」のみなさんとさまざまな開通イベントを行ったのがきっかけでした。といっても、このイベントは、サアーやらんで大楠21だけでなく、平成会、稻持

つくし会、フラワーロード協議会など14の団体が協力しあって開催しています。

このぶぶるパークみかもをフィールドに、美しい吉野川を守っていこう、吉野川に多くの子どもたちの声があふれますように、そんな思いから、年に数回のボランティア清掃や、宝探し、ツリーハウスの建設、キャンプファイヤーなど多くのイベントを開催しています。

「川には、楽しいところもあるし、危険なところもある。それを大人が教えてあげないと」と会長の川原さんはいいます。

川原さんのお話を聞いていると、川は



鮎つかみどりの前に、水辺の楽校をみんなでおそうじ



子どもたちに囲まれて笑顔の川原さん



みんなで楽しく鮎のつかみどり

楽しみ、親しみ、近づく場所。そんな思いがあふれでできました。

四国三郎の郷 サマーフェスティバル



なかなか間近に見ることができない、熱気球や、モーターパラグライダー。気持ち良さそう。

ぶぶるパークみかもを訪れた後は、美馬市の四国三郎の郷ふれあい広場で8月30日と31日に開催されていた「第3回 四国三郎の郷 サマーフェスティバル」へ。会場の北側には阿讃山脈が、また、吉野川をはさんで南側には剣山山系を眺めることができ、ゆったりとした時間を過ごすことができました。体験として開催されていたモーターパラグライダーが会場の上を飛び、大きな熱気球

も会場にいろいろを添えていました。訪れたのは、ちょうど「あめごのつかみどり」が行われていた時間。川に近づくにつれて子どもたちの歓声がだんだんと大きく聞こえてきました。多くの人でどこでつかみどりをしているのか見えないほど。子どもたちや保護者のみなさんも笑顔で、川や自然に親しんでいました。

「このサマーフェスティバルは、よってこんでしゃべらんでをテーマに県西部の未来をみんなで語りあいましょう。そんな思いから始まったんですよ」と、NPO法人美馬体験交流の会の田中義美さん。30日には、雨が降り、花火大会の開催も危ぶまれましたが、夕方には雨もやみ、山々に囲まれた吉野川に舞い上がる花火を、家族でバーベキューを囲みながら、会場を埋めつくした多くの観客が眺めました。

今回のサマーフェスティバルでは、初めての試みとして筑後川で流域の活性化や上中下流の連携を深める活動をしているメンバー17人が会場を訪れました。吉野川上流域から下流域のNPOのメンバーなどと、吉野川と筑後川の未来について熱く語る時間も設けられました。

2日間で1万人が訪れた「四国三郎の郷 サマーフェスティバル」夏休みの最終日。川に親しみ、参加したみなさんの中にもさまざまな思い出ができたのではないのでしょうか。



約500人が参加したあめごのつかみどり

過去から 未来へ

ふる～ぶが100号を迎えた記念の年として、
取材した方々に再登場していただき、お話を伺っていきます。



美郷の宝を探し 守り続ける

美郷ほたる館 館長 佐藤 正勝さん(左)

美郷宝さがし探検隊 隊長 棟本 誠二さん(右)

『美郷』その名のごとく、美しい山々に囲まれ、清流の流れる四季を通じて美しき郷、それが吉野川市美郷です。町の中心を流れる吉野川の支流川田川には、ゲンジボタルやヘイケボタルが生息し、昭和45年には、全村(旧美郷村)が「美郷のホタルおよびその発生地」として、国の天然記念物に指定されました。「美郷ほたる館の館長」佐藤正勝さんに登場いただいたのは、平成17年のこと。久しぶりにお話を伺おうと車を走らせていたところ、なにやら川田川を道からのぞきこんでいる元少年二人。それが「美郷ほたる館の館長」佐藤正勝さんと「美郷宝さがし探検隊の隊長」棟本誠二さんでした。鮎がいるのを見ていたとのことですが、ほたる館で一緒にお話を伺う

ている日本有数の発生地で、約一ヶ月の間、これだけの範囲でホタルが見られるところは、他にはないそうです。

このツアーでは、ホタルの生態のほか、幼虫から成虫になるまでの成長の過程や、昔は、川に黄色い光の帯ができるほどホタルがたくさんいて、川の水面が見えなかったことなどを、ホタルを見ながら説明することにより、参加者の方にも大変興味深く聞いていただいたそうです。

このツアーの案内人を務めているのが、佐藤さん、棟本さんを中心とする美郷宝さがし探検隊のみなさんです。美郷宝さがし探検隊は、平成12年の美郷ほたる館の完成を前に、平成10年、美郷の美しい自然を残し、大切にしていきたいという思いから美郷の住民55名で結成されました。過疎化や、住民高齢化により、失われつつある歴史や文化を掘り出して、保存しようという活動をしています。このホタルエコツアーもその一環。その他、川田川の清掃や、川遊び。高開石積みライトアップ(高開地区にあるだんだ



川田川沿いの清掃の様子



川田川で遊ぶ

ルを通じて、環境の大切さも訴えていきたい」これからも、おふたりの思いは変わりません。

ホタルだけでなく、美郷はこれからの季節も楽しみがいっぱいです。山にはエノミ、ムク、シイ、アケビ、山ナス^{ぼろぼろ}などの木の実がいっぱいだし、母衣^{ぼろぼろ}露の滝や、重楽寺の紅葉も見事だと教えていただきました。

魅力あふれる美しき郷で、これから

もおふたりの探検と宝探しは続いていきます。もしかしたら、おふたりは気づいていないかもしれないけれど、おふたりも美郷の宝。秋から冬も楽しさいっぱいの美郷へいらっしゃいませんか？

少年のような探検隊のみなさんが迎えてくれますよ。



今年のホタルの乱舞の様子

ことにしました。

「今年は、台風で幼虫が流されんかったけん、ホタルが多かったよ～」と、佐藤さん。取材時から変わらず続いているホタルの季節に行われるホタルエコツアーにも、県内外から多くの方が訪れました。美郷のホタルは、自然に恵まれた美しい環境のあるこの地ならではの宝物。川田川や東山谷川の支流の4～5キロにわたって発生し

ん畑の石積み)や石積み体験、蕎麦打ち体験、梅の花まつりなど、さまざまなイベントを開催しています。

「これらのイベントを通じて、美郷の美しい自然や、いいところをたくさん伝えていきたい、ただ伝えるだけでなく美郷のホタ



母衣露の滝ツアー

「ホタルと活動写真」
提供:美郷ほたる館

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!



吉野川の北岸で徳島県北部の中心に位置する阿波市の久勝小学校。学校の東隣には樹齢400年を誇る野神の大せんだん(国の天然記念物)があり、子どもたちを見守っています。久勝小学校では、

総合的な学習の時間を「せんだん学習」と名づけ、地域や人とのかかわりを通して、自ら学び、心豊かに生きる子どもの育成を目標としています。

今回は、吉野川北岸用水を総合的な学習の一環として取り入れている4年生を訪ねました。

吉野川北岸用水の受益地域となる、三好市池田町から板野町にまたがる吉野川北岸地域は、徳島県下で最も年間降水量が少なく、水不足で苦勞した地域でした。阿波市阿波町から同市土成町にかけて「月夜にひばりが足を焼く」という諺もできたほどでした。水不足に悩んでいた吉野川北岸地域の農業用水として造られたのが幹線延長約70kmの吉野川北岸用水(平成2

年に完成)です。

訪問した時は、学習のまとめをグループに分かれて模造紙に書き込んでいたところでした。

7月2日に水土里ネット吉野川北岸(吉野川北岸土地改良区)主催の北岸用水探検隊ミニツアーに参加し、三好市の池田取水工、美馬市の野村谷チェック工などを見学しました。これまで北

北岸用水探検隊 —水の恵みを知る—



4年A組(上)、B組(下)のみなさん

岸用水について学んだことがなかった子どもたち。見学に行く前に、地域の方々からなるゲストティーチャーから、用水がなかった頃の話や、完成してからどのように変わっていったのかを聞き、事前学習を行いました。「今は水に困ることがないけど、用水ができる前は、お米が作れなくて桑しか作れなかったと聞いてびっくりした」「水で争いが起きるほど水が少なかったことに驚いた」など、先代の方々の苦勞を知りました。そして、ミニツアーでは、施設を見ることで水の大切さを実感し、三好市から水が運ばれてくる仕組みなどを勉強しました。



ゲストティーチャーから北岸用水が完成する前の話を聞いた
(写真提供:久勝小学校)

模造紙には「ウ

ォーター新聞」「北岸用水探検隊」など様々なタイトルがつけられ、ゲストティーチャーからの話を中心にしているもの、北岸用水の見学で学んだことを中心にしているものなど、内容もさまざま。四コマ漫画で分かりやすく施設を紹介したものもありました。「水をむだ使いせず、大切にしていきたい」「水を見守ってくれている人がいるから、安心して水を使えることを知った」など色々な感想がかかっているのが印象的でした。

今回の記事は、今後、校内に掲示をしたり、参観日などで発表会を実施したりして、学習してきたことを他の子どもたちや地域の方々にも伝えていく予定です。

現場を見学し、地域の方々からも学んでいる子どもたち。地域を愛する大人に成長していくことでしょう。



完成!いろいろな思いが書かれている



学習したことを相談しながらまとめていく



上)野村谷チェック工分水工(写真提供:水土里ネット吉野川北岸)
下)野村谷チェック工にて(写真提供:水土里ネット吉野川北岸)



「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと
レポート

一吉野川 川の便り / 川と人と

徳島市 山地 武彦さん

吉野川大橋北詰一帯は、かつての鈴江の渡し場である。平水時には、吉野川大橋直下一帯が渡し舟の発着場であり、高水や風雨の強い時には、水門の内側が発着場になった。

当時利用されていた通路用の石段が、両岸に現存している。現在、ここには榎瀬川樋門が設置され、榎瀬江湖川の流出口となっている。

この榎瀬川樋門の内堤防の上に、二体の石仏が安置されている。

石仏には数多くの刻序があるが、風雪にさらされ、字句の判読も難しい。右の仏には



第一番、左の仏には第三十三番の刻序があり、二体とも左の御手に蓮華をかざしている。

ここを起点として、榎瀬江湖川を上流に向かい、二番、三番と続き、今切川を下流に向かい、河口から宮島江湖川に入り、この川を遡ると宮島樋門に至る。

この樋門の内側に、第三十番、第三十一番、第三十二番の三体の石観音が鎮座している。榎瀬江湖川〜今切川〜宮島江湖川と水の廻廊を行く如く安座されたのが、川内三十三石観音霊場である。

この三つの川の水の廻廊は、明治以降、昭和三十年後半まで、徳島と撫養を結ぶ大動脈であった。明治二十年代ごろ始まった撫養巡航船は、新町川〜吉野川〜

榎瀬江湖川〜今切川から、鍋川〜旧吉野川〜撫養川へと運行していった。

巡航船の大型化、高速化に伴い、昭和5年徳島快速巡航船組合の新船就航とともに、吉野川から宮島江湖川〜今切川河口〜長原沖〜旧吉野川〜撫養川への航路となった。

なぜ川内に三十三観音が勧請されたのか。観音経普門品によると「南無観世音菩薩」と唱えることによって、風水害から守られるという教えに、ヒントがあるように思える。(大日寺西田住職に御教示をえた)

略図に見る通り、川内石観音霊場は、川内町の外周をぐるり一周、およそ17kmの距離



がある。現代工法による強固な築堤により、水の恐怖から解放されたが、石仏には供物や供花、今も地域の人々の熱い思いに守られている。この霊場については、2001年1月、川内まちづくり協議会が「川内のみち」を発行。写真版で紹介している。

石観音建立から、わずか100年余り、水上交通は陸上交通へと移行した。

今切川には、貨物船が今も往来している。

川の交通は、今も生きている。



源流域からの便り

第 4 便

このコーナーでは、吉野川源流域に住む方々に暮らしや四季のうつろいを、綴っていただきます。

早明浦ダム直下の高知県本山町では、夏の間に吉野川や支流を舞台とした、水や自然に親しむことのできる様々なイベントが開催されていますが、この中でも代表するイベントを2つほど紹介します。

7月には汗見川の透き通る清流を眺めながら走る「汗見川清流マラソン大会」が開催され、県内外より約500人の参加者が健脚を競います。

8月には高知県内でもっとも古いいかだレース「吉野川いかだ祭り」が開催されます。

このレースは、江戸時代に白髪山から伐採されたヒノキを筏に組んで搬出した歴史にちなんで始められたものです。

両イベントとも自然に親しむイベントとして、県内外より多くの方が参加する本山町の夏の風物詩として定着しており、町民ぐるみで盛り上がりを見せる息の長い大会となつています。

また、汗見川流域に廃校小学校を宿泊施設に改修した「汗見



川ふれあいの郷 清流館」が5月にオープンしました。木造の温かみあふれるこの施設を拠点とした子どものキャンプや学生の合宿が行われており、間伐や木工・苔玉づくりなど様々な自然体験もできます。

夏場は高知県内で最も高い気温、冬場は最も低い気温を記録することもある本山町ですが、この季節は日中の寒暖の差により、お米を代表とする大変おいしい農作物ができます。いま、収穫の秋を迎え、町内の農家も大忙しです。

※今年は7月21日に汗見川清流マラソン大会、8月3日に吉野川いかだ祭りが開催されました。

泉 祐司さん

高知県本山町在住。
本山町観光協会の理事などで地域振興に取り組んでいる。

ふる-ぶ 3姉弟妹の Information

求む!「野鳥観察モニター」

～吉野川の野鳥情報を教えてください!～

募集!

徳島河川国道事務所では、吉野川の野鳥に関する情報を提供していただける「野鳥観察モニター会員」を募集します。河川環境(鳥類)に関する情報を充実するため、地域の方々と連携して野鳥情報収集を行いたいと考えています。

- 対象となる場所** 吉野川本川(吉野川河口～池田ダム)、旧吉野川(河口～第十樋門)、今切川(河口～三ツ合橋)
- 情報提供の内容** 吉野川、旧吉野川、今切川で見られる野鳥の種類、個体数、確認日時、確認場所等
- 情報提供の頻度** 月1回程度
- 募集締切** 平成20年10月31日

まだまだ
募集中です。
会員登録お待ちしております。

「野鳥観察モニター会員」とは、吉野川の野鳥に関する情報を提供していただける方で、徳島河川国道事務所において会員登録をさせていただく個人又は団体です。
本調査を通じて環境情報を共有することにより、身近な河川環境への理解を深めていただければと思います。

詳しいお問い合わせは

徳島河川国道事務所 河川環境課 ☎ 088-654-9176 まで
(まずは、詳しい資料を送付させていただきます。)

早明浦ダム管理開始以降 最大の渇水 平成20年吉野川夏渇水

関係機関と連携して 渇水対応を行っています。

平成20年度夏渇水は、昭和50年早明浦ダム管理開始以降最大の渇水となりました。過去にも平成6年、平成17年と有効貯水容量が0%となる事態がありましたが、その時は直後の台風の降雨により、回復しました。今回は、8月31日、貯水率が0%を切り、その日数が過去で最長となる大渇水となっています(9月15日現在)。国土交通省では、吉野川水利利用連絡協議会等により渇水対応に関係機関とともに取り組んでいます。



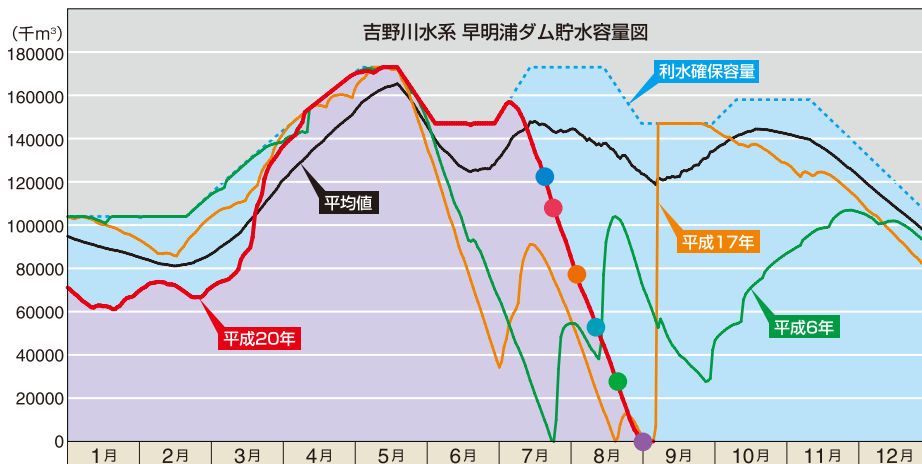
7月24日、四国地方整備局に渇水対策本部、徳島河川国道事務所と吉野川統合管理事務所に渇水対策支部をそれぞれ設置しました。

吉野川水利利用連絡協議会を4回開催、吉野川水利利用連絡協議会(幹事会)を7回開催し、渇水調整等に関係機関と協議し、渇水対応に努めています。

緊急対応

このような異常渇水を受け、徳島県知事より四国地方整備局長に対し、早明浦ダムの利水貯水率が0%になった時点で、吉野川の自然流量から農業用水及び工業用水を緊急取水できるよう要望があり、四国地方整備局では、一時的緊急避難措置として、自然流量から取水が可能とすることを徳島県に通知しました。

- 7/21…自主節水(徳島用水7.0%、香川用水(上水)約10%)
- 7/25…第1次取水制限(徳島用水15.2%、香川用水20%):7/24~8/30までの運用値
- 8/3…第2次取水制限(徳島用水17%、香川用水35%):8/1~8/20までの運用値
- 8/12…第3次取水制限(徳島用水18.8%、香川用水50%):8/11~8/20までの運用値
- 8/21…第4次取水制限(徳島用水21.6%、香川用水60%):8/21~9/10までの運用値
- 8/31…発電専用容量の緊急放流開始(徳島用水1.95m³/s、香川用水1.90m³/s)



徳島河川国道事務所では、流況の適正な管理を行うため、毎日、吉野川及び旧吉野川の主要地点において水位の観測と流量算出(速報値)を行い、結果をホームページにて公表しています。また、流量の減少に伴う環境等への影響も懸念されるため、水質等の調査も適宜行っています。

流況監視・調査

吉野川の主要地点の水位等をテレメータで監視しています。また、吉野川の主要地点の流量観測や河川水位・地下水位の測定を行い状況把握に努めています。



水質調査

吉野川の流況の変化に伴い、主要地点の水質調査を実施し、状況把握に努めています。(PH、DOなど)



河川巡視・状況写真撮影

吉野川の状況変化を把握するため、毎日の河川巡視、週1回の主要地点での写真撮影を行っています。



よりよい吉野川づくり 吉野川河川整備計画については <http://www.yoshinoriver.info>

ふる〜ぶ編集後記

本当に暑かった夏が過ぎ、吉野川にも秋がやってきました。水面をわたる風もさわやか。釣りをしたり、写真を撮ったり。また、皆さんの吉野川の秋の楽しみ方を教えてください。(か)

ストーンアート教室では、子どもたちがアーティストになりました。石の形を活かして創造的な作品が完成していました。私も以前描いたことがあります。「これは何を描いたの?」と聞かれてしまいました。(や)



お手玉プレゼント

ふる〜ぶめいとリーダー 上田佳穂さんからいただいたお手玉を抽選で1名様にプレゼントします。(2個)ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえ応募ください。締切は10月31日(金)です。それぞれ模様が違う手作りですので、発送の際には、写真とお手玉の模様が異なる場合もあります。

プレゼント応募先 〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる〜ぶ編集部「お手玉」プレゼント係



ふる〜ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読ください。